

第3学年算数科学習構想案

日時 令和5年9月20日(水) 第2校時

場所 3・4年教室

指導者 3・4担任、特別支援教育支援員

1 単元構想

単元名	あまりのあるわり算		
単元の目標	余りのあるわり算において、余りの意味やその計算の仕方を理解し、わる数と余りの大きさの関係をとらえたり、場面に応じて余りを処理したりできるようにとともに、生活や学習に活用しようとする態度を養う。		
単元の評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	① 余りのあるわり算の計算の仕方が分かり、その計算ができる。 ② 場面に応じて、余りを的確に処理することができる。	① わり算の意味に基づいて、余りのあるわり算の答えの求め方を考えることができる。 ② わる数と余りの大きさの関係をとらえることができる。	① 余りのあるわり算の問題に進んで取り組もうとする。
単元終了時の児童の姿(単元のゴールの姿・期待される姿)			
包含除・等分除における商とあまりを、式・○(ドット)や線分図・言葉で表すことができる児童			
単元を通した学習課題(単元の中心的な学習課題)		本単元で働かせる見方・考え方	
いろいろな生活場面で、割り算を使えるようになる。		実際の生活でわり算をすれば、「わり切れる」場合だけでなく余りが出ることが多いという、数をわることのとらえ方	
指導計画と評価計画(時間取扱い 本時 7/8)			
過程	時間	学習活動(「問い」を設定しても可)	評価の観点等 ★は記録に残す評価の場面で「具体的評価規準」のみを書く。
一	1	・既習内容と生活場面により、余りのあるわり算の動機付け ・余りのあるわり算(包含除)の意味と表し方《あまり、わり切れる、わり切れない》	【知技①】(発言・記述) ○包含除の場合のあまりのあるわり算の場面を式と図に表し、答えを求めることができる。
	2	・(余り) < (除数) の関係の理解	【思判表②】(観察・発言) ○4でわるとあまりは「1・2・3」にしかならないと説明している。
	3	・等分除で余りのあるわり算の意味、余りのあるわり算の計算、適用題	【知技①】(発言・記述) ○等分除の場合のあまりのあるわり算の場面を式と図に表し、答えを求めることができる。
	4	・余りのあるわり算の答えの確かめ方 (除数) × (商) + (余り) = (被除数)	【態度①】(観察・発言) ○あまりのあるわり算の操作や計算をもとに、答えの確かめ方を考えようとしている。
	5	・余りのあるわり算の練習、適用題	【態度①】(発言・記述) ○あまりのあるわり算に進んでとりこんでいる。
二	6	・余りを切り上げる問題の解決	【思判表①】(発言・記述) ○あまりを切り上げて処理すればよいわけを考えたり説明したりしている。
	7	・余りを切り捨てる問題の解決 ★本時(7/8)	【思判表①】(発言・記述) ★あまりを切り捨てて処理すればよいわけを考えたり説明したりしている。
	8	・基本の確かめ、ふりかえり、やってみよう	【思判表①】(発言・記述) ○あまりのあるわり算に進んでとりこんでいる。

2 校内研究に関連して

<p>《視点1》【何を身につけるのかを明確にした授業づくり】</p> <p>○1時間ごとに「めあて」を示し、学習のねらいを児童と共有する。また「めあて」に対応した「まとめ」を行う。</p> <p>○問題状況を図から式にあわらすことを経験させる。また、結論で出てくる「○組できて○個あまる」という言葉と式と図が結びつくようにする。</p> <p>○問題場面がどんな状況なのかを具体的に考えさせ、「わり算」を使う必要性を高める。</p>	<p>《視点2》【自分の考えを持てるように個に合わせた手立て、交流する場に関する取り組み】</p> <p>○すべての児童が課題解決について見通しが持てるよう、問題の「気付き(前回と異なる所・同じ所など)」を発表させる。</p> <p>○課題について個々に取り組むのではなく、複数人で相談しながら解決できるようにする。</p> <p>○問題場面について書いた図について、確かめることができるように、具体物や操作できるものを準備する。</p>
--	---

第4学年算数科学習構想案

日時 令和5年9月20日(水) 第2校時

場所 3・4年教室

指導者 3・4年担任、特別支援教育支援員

1 単元構想

単元名	割合		
単元の目標	2つの数量の関係について、整数の場合で何倍になるかという割合を用いて比較したり割合から数量を求めたりすることを通して、割合の意味とそれを用いる場面について理解するとともに、生活や学習に活用しようとする態度を養う。		
単元の評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	簡単な場合について、ある2つの数量の関係と別の2つの数量の関係を比べる場合に、割合を用いることがあることを理解している。	日常の事象における数量の関係に着目し、2つの数量の関係を、割合を利用して比べて考察することができる。	割合を利用して、2つの数量を比較しようとする。
単元終了時の児童の姿(単元のゴールの姿・期待される姿)			
二量の間を、テープ図や関係図に表すことができる児童			
単元を通じた学習課題(単元の中心的な学習課題)		本単元で働かせる見方・考え方	
新しい数の比べ方を知ろう		ある大きさを1としたとき、ほかの大きさはどう表されるかという割合の見方・考え方	
指導計画と評価計画(時間取扱い 本時4/4)			
過程	時間	学習活動(「問い」を設定しても可)	評価の観点等 ★は記録に残す評価の場面で「具体的評価規準」のみを書く。
一	1	・2つの数量関係を比べる際に、割合を利用することの動機づけ	【態度】(観察・発言) ○数量の関係を図に表して考えようとしている。 【知技】(発言・記述) ○割合について知り、割合を使って数量の関係を比べることができることを理解している。
	2	・2つの数量の割合を比較する。《割合》 ・割合の第2用法、第3用法にあたる倍の計算	【思判表】(観察・発言) ○数量の関係を図に表して考えたり説明したりしている。
二	3	・ $\square \times a \times b = c$ で \square を求めるのに、順に考えたりまとめて考えたりする。	【思判表】(観察・発言) ○「 \square の a 倍の b 倍が c 」という数量の関係を図に表すことを通して、「 \square の $(a \times b)$ 倍が c 」という関係に気付いている。
	4	・ $\square \times a \times b = c$ で \square を求めるのに、まとめて考える。 ★本時(4/4)	【思判表】(観察・発言) ★「 \square の a 倍の b 倍」を「 \square の $(a \times b)$ 倍」と考えている。

2 校内研究に関連して

<p>≪視点1≫【何を身につけるのかを明確にした授業づくり】</p> <p>○1時間ごとに「めあて」を示し、学習のねらいを児童と共有する。また「めあて」に対応した「まとめ」を行う。</p> <p>○基準量と比較量が明確になるよう、テープ図として使う基準量の色、比較量の色は同じにする。</p> <p>○基準量と比較量をカードにして並べ、両者の関係を「○倍」と書くことで、「基準量×割合=比較量」の式を少しずつ実感できるようにする。</p>	<p>≪視点2≫【自分の考えを持てるように個に合わせた手立て、交流する場に関する取り組み】</p> <p>○すべての児童が課題解決について見通しが持てるよう、問題の「気づき」を発表させる。</p> <p>○課題について個々に取り組むのではなく、複数人で相談しながら解決できるようにする。</p> <p>○「○倍」の関係が想起しやすいように、基準量の大きさ、基準量の2倍の大きさ、3倍の大きさのテープ図などを準備しておく。</p>
---	--